

モロッコ漁業訓練計画  
巡回指導報告書

平成3年4月

国際協力事業団

林水産

JR

91-12

TRY



411 / 891

# モロッコ漁業訓練計画 巡回指導報告書

JICA LIBRARY

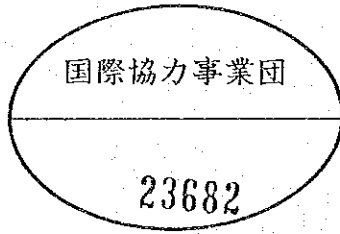


1097146(3)

23682

平成3年4月

国際協力事業団



マイクロ  
フィルム作成

## 序 文

国際協力事業団は、モロッコ王国政府の要請に基づき、同国の漁業訓練計画を昭和62年1月から開始した。

当事業団は、協力開始後4年目にあたり、本計画の進捗状況及び現状を把握し、相手国プロジェクト関係者及び日本人専門家に対し、助言と適切な指導を行うことを目的として、平成2年11月27日より12月10日まで、農林水産省下関水産大学校校長青山恒雄博士を団長とする巡回指導調査団を現地に派遣した。

調査団は、モロッコ王国政府関係者と協議を行うとともに、プロジェクト・サイト調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなった。

本報告書が、本プロジェクトの推進に寄与するとともに、両国の友好・親善の一層の発展に役立つことを願うものである。

終わりに、本件調査にご協力とご支援をいただいた関係者各位に対し、心より感謝の意を表するものである。

平成 3年4月

国際協力事業団  
理事 田口俊郎



## 附属資料

- ① ミニッツ
- ② 合同委員会議事録
- ③ 平成2年度巡回指導資料
- ④ モロッコ王国 I T P M
- ⑤ 教育構造比較略図
- ⑥ モロッコにおける教育制度と海技資格







ミニッツ署名

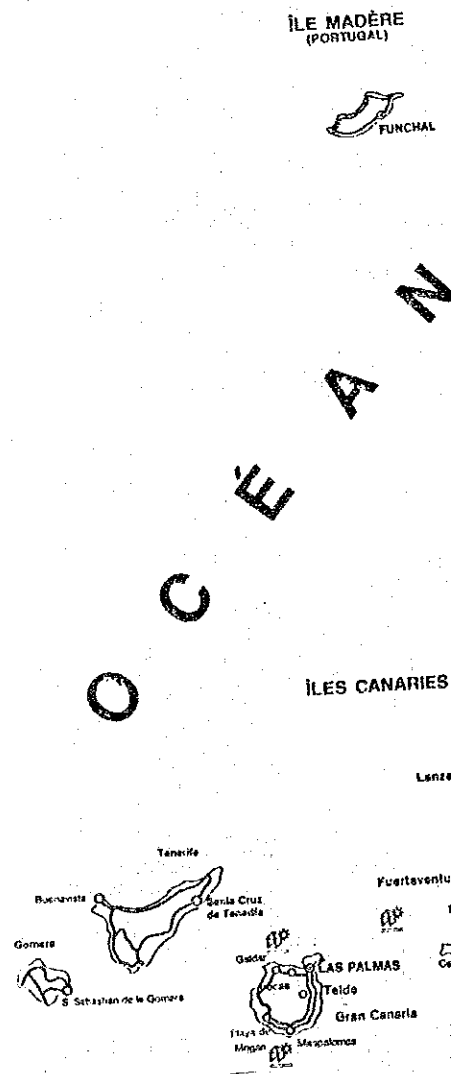


合同委員会 出席者全員

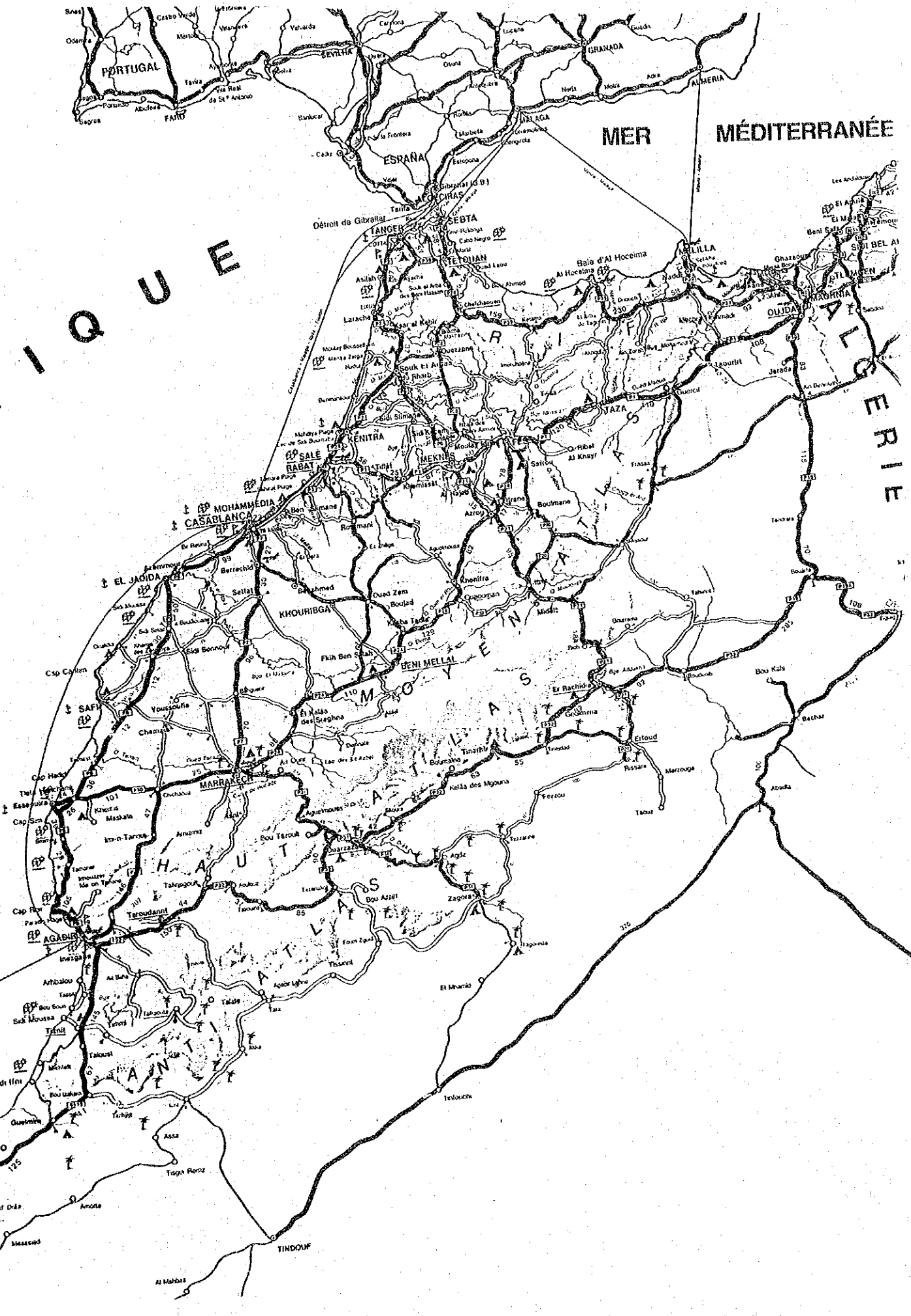
المغرب  
MAROC

CARTE ROUTIÈRE  
1:3 000 000

モロッコ王国地図



ATLANTIQUE





# 目 次

序 文  
写 真  
地 図  
目 次

1. 巡回指導調査団派遣 .....	1
1-1 調査団派遣の経緯と目的 .....	1
1-2 調査団の構成 .....	2
1-3 調査日程表 .....	2
1-4 主要面談者 .....	3
2. 要 約 .....	4
3. アガディール I TPM に於ける協議内容（要点） .....	6
3-1 89年度事業実績 .....	6
3-2 90年度事業計画 .....	6
3-3 技術移転状況 .....	6
3-4 専門家派遣状況 .....	6
3-5 その他 .....	7
4. アガディール I TPM に関する調査結果 .....	8
5. 漁業海運省との協議（要点） .....	10



## 1. 巡回指導調査団派遣

### 1-1 調査団派遣の経緯と目的

本件プロジェクトは、1986年12月、期間5年間とするプロジェクト方式に依る技術協力を行うこととする討議議事録(R/D)を作成、署名され、翌'87年1月より実施されて本年はR/D期間5年のうち4年目に入っている。

プロジェクト実施当初は、モロッコ側の予算措置等の不備もあって、多少その進展と“翳り”の見た時期もあったが、モロッコ側の努力、日本側の支援によって難局を切り抜け、その後T S Iで策定された計画に従い、プロジェクトは実施されてきた。

又、これ迄毎年開催されたプロジェクトの合同委員会にあわせて、巡回指導調査団を派遣し、問題点の把握とその解決・指導に当たってきたが、本プロジェクトは、大筋として、順調に推移してきたと言える。

89年12月の合同委員会にて、モロッコ側より、これ迄のプロジェクトの進展状況を土台とした次のステージとして、漁業海運省が考えて居る新しい計画が披露され、日本側への協力打診がなされた。

漁業海運省が考えている新しい計画は、以下の通り、

1. アガディールITPM\*1に Capitaine de peche コースの開設
2. モロッコ各EPM\*2の教育水準の向上
3. 漁獲物処理、品質管理の Technician の養成
4. タンタンITPMの開設

\*1 ITPM : Institut de technologie des peches maritimes

漁業技術学院

\*2 EPM : Ecole professionnelle meritimes

海運学校

又、'90年7月、在モロッコ日本大使館宛、モロッコ漁業海運省よりアガディールITPMに

Capitaine de pecheコース、漁獲物処理の Technician 養成コースを開設し、アガディールITPMを土台として、各EPMの教育内容の充実を図るといった内容のプロジェクト方式による技術協力の正式要請がなされた。

以上のような経緯をふまえ、今回巡回指導調査団を派遣し、プロジェクトの進展状況等現地調査を行い、今後の活動方針等を日本人専門家と協議すると共に、本件プロジェクトのR/D期間終了後の日本側の協力のあり方に“方向づけ”をする為、モロッコ側と協議せしめることとした。

### 1-2 調査団の構成

団長（総括）	青山恒雄	水産大学校校長
団員（水産教育）	中谷三男	文部省職業教育課調査官
”（水産技術協力）	佐藤昭人	水産庁海外漁業協力室
”（プロジェクト運営）	佐々木直義	JICA水産業技術協力室室長代理

### 1-3 調査日程表

平成2年11月27日（火）	・東京 → パリ
28日（水）	・パリ → ラバト
29日（木）	・JICAモロッコ事務所にて打合せ ・在モロッコ日本大使館表敬 ・漁業海運省表敬
30日（金）	・ラバト → カサブランカ → アガディール ・アガディールITPM訪問
12月1日（土）	・日本人専門家と協議
2日（日）	・休
3日（月）	・日本人専門家及び学院長と89年度実績、90年度事業計画についての検討 ・学院施設、訓練船 AR-RACHID、小型訓練船の視察
4日（火）	・前日に引き続き90年度事業計画についての検討 ・国内打ち合せ、合同委員会準備
5日（水）	・アガディール → カサブランカ → ラバト

- 6日(木) ・合同委員会
- ・ Proces Uerbal, Minutes の内容検討
- 7日(金) ・署名
- 8日(土) ・ラバト → カサブランカ → ロンドン
- 9日(日) ・ロンドン発
- 10日(月) ・東京着

#### 1-4 主要面談者

##### (モロッコ側)

MOHAMED TANGI	漁業海運省	国際関係、訓練、法務局長
HADDOU HROUCH	”	訓練課長
ABDELKABIR RAFIKY	”	国際関係課長
ABDELAZIZ TALEB	”	教育担当官
HASSAN CHEGDAL	”	教育機関業務課長
FATIMA SAMAH (女性)	”	指導訓練業務課長
LAHFIDI AHMED	”	総務課長
RAMADAN CHEMARIK	I T P M	学院長
LAKHMOUR ABDELHADI	”	教務主任
OUDAOUD AHMED	”	漁業科教師
ETTOUHAMI AHMED	タンタン I T P M	学院長補

##### (日本側)

大林喬一	在モロッコ日本大使館特命全権大使
迫 久展	” 一等書記官
柳井 進	モロッコ事務所長
高橋孝七	専門家(チームリーダー)
関沢 勲	” (教育関係)
岡田久蔵	” (船舶機関)
中西 弘	” (調整員)
小齋庸輔	” (漁具, 漁法)
和田辰雄	” (航海計器)
ソノエ アライ シェダデー	通訳



## 2. 要 約

2-1 漁業海運省に於いて、モロッコ側と本件プロジェクトの予備評価及びR/D期間終了後の協力の“方向づけ”について協議を行い、以下のような合意を得、Minutes を作成し、本調査団長及び漁業海運省国際関係、訓練、法務局長との間に署名された。

### 1) 予備評価

本件プロジェクトはT S Iの計画通り実施され、プロジェクト開始以来これ迄の活動を通じ、遠洋トロール漁船士官として必要な基礎的な理論、技術は既に構築されC/Pの質的向上が図られてきた。

### 2) R/D期間終了後の協力の方向づけ

- (1) 92年1月から93年9月迄、Capitaine de pecheコースの準備と実施に Follow up協力を  
する。
- (2) 92年1月から9月迄は、Capitaine de pecheコースの準備期間とし、10月から翌93年9  
月迄実施期間とする。
- (3) 91年6月または7月に日本側はエバリュエーション調査団を派遣し、本件プロジェクトの  
評価を行うと共に前述(1)の実施の為の新しいR/Dを作成する。

### 3) その他の要請に対する助言

E P Mの教育水準向上及び漁獲物処理のTechnician養成の要請については、明確な計画  
画及び国内状況の幅広い視察の上に立ち検討することが必要であり、本件プロジェクトと  
は別に、将来それぞれ独立したプロジェクトとして検討されるべきであると考える。

タンタンITPMに関する要請についてはJ I C Aの教育制度に馴染まない。但し、学  
院が必要とする教育資機材についてはアガディールドッグ完了後、日本の無償資金協力を  
モロッコ側が優先順位を付し、要請する事を検討されてはいかがであろうか。

### 4) 姉妹校提携の提案について

局長より、東京水産大学の練習船海鷹丸のアガディール寄港及び姉妹校提携の要請があ  
った。海鷹丸のアガディール寄港については、現時点では時期を失っており、実現は困難  
と思われるが、帰国後更に関係先と接触する。又姉妹校提携については関係大学に連絡す  
る旨伝えた。

2-2 アガディールITPMに於いて、日本人専門家及び学院長、教務主任等を混え、89年度事業実績及び90年度事業計画（それぞれ日本の会計年度）について項目別にそれぞれ検討した結果、TSIに従って計画された89年度計画はおおむね計画通り実施され、90年度事業計画は妥当な計画であることを確認した。

2-3 合同委員会が開催され、本調査団はオブザーバーとして参加した。89年度事業実施及び90年度事業計画は満足の意で了承された。特にC/Pの学生指導内容が質的レベルアップを果たしていること、及び90年の活動方針とした供与機材の有効利用及び小型訓練船の運航管理の確立等が合議議事録に記録され、プロジェクトリーダー及び漁業海運省国際関係、訓練、法務局長との間で署名された。

### 3. アガディールITPMに於ける協議内容（要点）

日本人専門家及び学院長、教務主任を含め、89年度事業実績及び90年度事業計画その他の事項について項目別に検討された。

#### 3-1 89年度事業実績

訓練船 AR-RACHIDは計画立案当初に期待された以上の実績を示し、船舶雰囲気も良好でおおむね正常化を果たしたといえる状況である。又深海採業の試験採業では、アガディール沖に良質のエビ漁場形成の可能性を見い出している。

レーダーシュミレーター、回流水槽等の大型供与機材も学生指導に実際に使用されており、供与機材、研修員派遣等についても計画通り実施された。

諸活動の水準と比し、視聴覚機材の活用分野にやや立遅れが見られるが、プロジェクト全体としてはおおむね計画通りに進展したといえる。

#### 3-2 90年度事業計画

89年度の実績をふまえ、これ迄の業務の継続以外に、特に視聴覚教材等各種供与機材の有効利用及び訓練船 AR-RACHIDでは実施できなかった学生訓練を、効果的に実施する為の小型訓練船の運用の確立といった点に留意した事業計画は妥当なものである。

#### 3-3 技術移転状況

学院長より、プロジェクトの進展状況について満足していること、及びこれ迄のプロジェクト活動を通じC/Pの質的向上が為され、遠洋トロール漁船士官として必要な基礎的な理論、技術が既に学院内で構築されている旨の発言があり、謝意が表された。

#### 3-4 専門家派遣状況

船舶機関専門家の派遣期間の延長、及び漁獲物処理に係わる91年度の短期専門家の派遣要請が表された。

### 3-5. その他

- 1) 漁獲船 AR-RACHIDはプロペラシャフトに不安があり、プロペラシャフト及び予備プロペラを別枠で考えて頂きたい旨の要請があった。
- 2) 一般研修員の日本研修内容を高めて欲しい旨の要請があった。日本とは慣習・慣行の違いもあり（使用する者と保守、メンテナンスをする者がモロッコに於いては異なる。）、今後充分この点を考慮し、善処することとした。
- 3) 購送機材は CIF AGADIR とするよう改めて要請があり、善処することとした。  
(小型訓練船は本年7月カサブランカ着、アガディール11月末到着予定)
- 4) 回流水槽のステンレス部に発錆が生じていること及び振動等について指摘があり、調査団も現場を視察し、回流水槽の専門家派遣時検討することとした。尚日本人専門家より、回流水槽、レーダーシュミレーター等の大型機材については、据付け後一年位してからメーカーの一般点検が必要な旨の要請があった。

#### 4. アガディール I T P Mに関する調査結果

本調査団が、アガディール I T P Mに於いて89年度事業実績及び90年度事業計画の検討、実地調査した結果は以下の通り。

- 1) 学校運営、L/C負担、C/P配置、訓練船の運航管理、機材等の維持管理等満足し得る状況にある。
- 2) 学生指導に必要なマニュアル、テキスト類もおおむね整えられてきた。
- 3) 回流水槽、レーダーシュミレーター等の大型供与機材を含め、供与機材を利用した学生指導が実際に実施されている。
- 4) 訓練船 AR-RACHIDはおおむね正常化を果たしたといえる状況にある。
- 5) 学院長より、遠洋トロール漁船士官養成に必要な基礎的な理論、技術はこれ迄のプロジェクトの活動を通じ既に構築されており、C/Pの学生指導内容の質的向上がなされたことに感謝する旨の発言があった。
- 6) 本学院の卒業生は既に船長となっている者もあり、モロッコ資本の漁業者を中心として、現在約45隻のモロッコ人操業による漁船が存在していると言われ、遠洋漁船のモロッコ人化に大いに貢献している。
- 7) 日本人専門家とC/Pとの間も緊密であり、漁業海運省及び業界からも高い評価を受けている。
- 8) アガディール I T P Mは設立以来3ヶ年を経過し、モ、日両国関係者の努力によって着実に学校づくりが進んでいると考えられる。  
学費、生活費は国費支給の上、奨学金等もモロッコ王国の生活水準に比して高く、今年度の志願者は定員 100人に対し2000人以上の志願者（競争率20倍以上）、女子受験者も10人含まれるという激しい競争であった。入学者の85%は大学中退者であり、外国からの留学生は8人となっている。

以上の結果から本調査団は、本件プロジェクトはT S Iで策定された計画通りに進展している  
ものと認める。